

平成 29 年度 学校評価

兵庫県立千種高等学校

1 学校教育目標

郷土を愛する心と純真素朴な風を育み、たくましい身体と強い意志をもって自立し、命と人権を大切に  
して社会に貢献する、こころ豊かで自立した人づくりをめざす。

2 重点目標

- ①地域になくってはならない「信頼される学校」、「魅力ある学校」づくりの推進を図る。
- ②特色ある3類型と特色ある教育課程を編成し、確かな学力と人間性をそなえた生徒の育成を図るとともに、自己実現と進路目標の達成を図る。
- ③教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。
- ④互いを認め合う望ましい人間関係を築きながら、食育・福祉教育や安全教育の推進を図る。

4 総合的な学校関係者評価

- ・重点目標に対して手綱を緩めないで、このまま努力していただきたい。
- ・教職員の負担が重くなりすぎないか心配。しかし今日の千種高校があるのはそうしたご尽力の賜物だと思う。
- ・地域になくってはならない「信頼される学校」「魅力ある学校」づくりに、生徒、教職員が大変努力されていることに心より感謝する。
- ・情報通信技術（TV会議や遠隔授業）をおおいに利用して、どんどん教育に役立ててほしい。

3 自己評価結果

※評価点は、4点満点

○：良好な評価 ◇課題等

	実践目標	実践項目	29年度 評価	昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
1	地域になく てはならない 「信頼される 学校」、「魅 力ある学校」 づくりの推進 を図る。	ホームページの充実を図り、学校の様子を随時発信する。	3.2	3.0	○随時更新されおり、いつも新しい情報を見ることができた。 ◇SNSを利用して情報発信をする。（HPは見ようと思わないと見ないがSNSは情報をリアルタイムに届けることができる。）	・「第13回ひろげよう情報モラルセキュリティコンクール2017」の最優秀賞の受賞、アリゾナ州の高校生とのネット会議等、小規模高校だが特色ある取組をしていることを大変評価したい。  ・千高だよりを全戸配布していることで、よりよく学校の様子がわかるようになった。  ・まさに「地域になくってはならない」高校として幅広い地域密着型の事業を展開していると思う。千種高校の存続は、千種町の存続にもつながる問題だ。  ・連携行事や授業の回数増加などが先生方の負担にならないように進めていただきたい。
2		学校行事、授業参観等を実施し、開かれた学校づくりに努め、その感想や意見を学校経営に役立てる。	3.1	3.0	◇授業を参観できる機会の充実を図る。	
3		生徒が地域と関わる機会を増やし、地域社会の発展を願う気持ちを高揚させる。	3.5	3.2	○前年度以上に地域行事等によく参加して、高校生としての役割を果たすことができた。 ◇様々な行事に参加できているが、行事によっては学校の授業に生徒が出られないこともある。また、参加が特定の生徒にかたよる傾向にあることから、バランスを考慮しながら全ての生徒が地域と関わるように努める。	
4		千種町園小中高連携一貫教育推進事業との連携を深め、まちづくり活動を推進する中で、「行きたい高校」として本校の存在を身近に感じさせる。	3.3	3.0	◇高校での学力の伸び悩みのある生徒の学力向上に取り組む。	
5		行事や授業を通じて「連携型中高一貫教育校」の定着、発展を図る。	3.2	3.4	○行事の連携により、職員間の交流も増え、中高の情報共有が可能となっている。 ◇体育祭やマラソン大会など、来年度以降にさらなる進化をさせる。 ◇高校で学力が伸び悩んでいる生徒の対応を中学校とともに考える。 ◇連携行事や授業の回数を増やすだけでなく、内容を充実させる工夫をする。 ◇中高連携の重要性とその成果を生徒に理解させる取組の充実を図る。	
6	特色ある3つ の類型と特色 ある教育課程 を編成し、確 かな学力と人 間性をそなえ た生徒の育成 を図るととも に、自己実現 と進路目標の 達成を図る。	挨拶の励行等基本的な生活習慣および品格ある自覚した行動の確立に努めさせる。	3.5	3.2	○来客者に対してもしっかりとあいさつができた。 ○大雪の日には、自主的に雪かきを行うなど、周囲の状況から自分のやるべきことを認識して役割を果たすことができた。	・生徒の目が輝いている。   ・ふれあい育児の体験活動を通して、家庭を築く願望を養ってほしい。  ・家庭の良さを教える教育をお願いしたい。
7		教科指導・総合的な学習の時間等を通して、生徒が自己の意見を論理的に明確に表現できるよう指導に努める。	3.0	2.9	◇「主体的・対話的で深い学び」のための授業計画を考える。	
8		ふるさと貢献活動、就業体験、ふれあい育児等の体験的活動を多く取り入れ、生徒個々の自己有用感を高める。	3.1	3.2	○2年生の総合的な学習の時間の活動により、就業体験にしっかりと取り組んでいる。 ◇ふるさと貢献活動などの取組で、特定の生徒にかたよる傾向にあることを解消する。	
9		部活動、委員会活動への参加を積極的に推進し、充実した高校生活を支援する。	3.2	3.3	○生徒が一生懸命に部活動や委員会活動に取り組んでいる姿は、中学生や地域住民に非常に良い印象を与えている。 ○卓球部を開設できた。	
10		進路説明会やLHR・面談等を通じて、主体的な進路選択能力の育成を図る。	3.1	3.1		
11	体育的諸活動を通して、心身を錬磨し、将来の社会生活でたくましく生きる体力・精神力を養う。	3.3	3.1	○今年度、初めて中高合同体育祭をしたが、生徒がいきいきと活動できるよう工夫されていた。		

	実践目標	実践項目	29年度 評価	昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
12	教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。	各教科において、授業研究など学習指導について工夫・改善を行う。	3.3	3.1	◇校内だけでは授業研究が難しいので、教育研修所の研修等の他、校外での研修にも積極的に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの類型と特色ある教育を通し、それぞれの生徒の個性と目的にそった学習がなされている。今後もこの方向でよいと思う。</li> <li>・基礎学力を身につけるよう丁寧に指導されていると思う。</li> <li>・いろいろな方向から実践的に指導を行い、忙しいなかにも保護者との連絡を綿密に取って意思の疎通を図ることはすばらしい事である。</li> </ul>
13		教科の枠を超えた授業の公開や研修会によって相互に研鑽する。	2.6	2.6	○数学と英語のコラボ授業をした。 ◇教科間での協力体制を構築する。 ◇公開授業を他の教員が参観できる体制作りをする。	
14		地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取り組みを行う。	3.0	3.1	○「アクティブ」の授業では、地域人材の活用がなされている。 ◇地域の先輩方の講話を聞く機会の充実を図る。	
15		生徒の実態や能力に応じて、個に応じたきめ細かい学習指導を実践する。	3.4	3.4	◇ベーシック類型については資格、技術の習得では情報関係の検定が多いが、他の類型でも検定受検の機会を増やす。	
16		課題や宿題の指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	2.7	2.9	◇類型の枠を越えて学習課題を用意し指導する。	
17		基礎学力の定着や資格取得のための補習を実施する。	2.9	3.2	◇継続的な学力向上に向けた取組が必要であるため、夏休み等にはより集中的に補習を行う。	
18		家庭連絡や家庭訪問を通して、保護者との情報交換や意思の疎通を図る。	3.2	3.1	○家庭訪問は高い効果があるので、方法を検討しながら今後も継続する。 ○生徒に対しても、保護者に対しても、一人一人に丁寧な対応がなされている。	
19		生徒の進路希望を達成するために、情報の収集や提供を行い、適切な進路指導を行う。	3.3	3.4	◇進路関係の図書も充実させていき、生徒自身も積極的に進路について考える環境を作る。	
20	互いを認め合う望ましい人間関係を築きながら、食育・福祉教育や安全教育の推進を図る。	マナーや規律、規範意識を高める取り組みを、ホームルーム、生徒会活動等で行う。	3.4	3.1	○生徒会の生徒たちは、朝の立ち番等、毎日よく頑張っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒達が自主的にマナー規律、規範意識を高め、日常生活で実践していることは大切である。</li> <li>・人間関係を大切に「目上の人」や「諸先輩方」への対応がしっかりできる生徒を育てていきたい。</li> <li>・孝行や感謝の気持ちを持つことの大切さを深める教育を考えていってほしい。</li> <li>・少人数ならではの行き届いたメンタルケア、モラル教育ができています。今後も継続すればさらなる高校の魅力になる。</li> </ul>
21		生徒一人ひとりの役割や居場所を、クラスの中や様々な教育活動の場において設定する。	3.3	3.0	◇学校行事等を利用し、クラス作りの充実を図る。	
22		生徒の個人面談や、日頃の声かけ指導を積極的に行う。	3.7	3.3	○教員がそれぞれ個人面談や声かけ行っている。千種高校の強みだと考える。	
23		防災教育や安全教育を、ホームルームや学校全体で行う。	3.1	3.1	○防災士による講義は、生徒達にとってよい体験であった。	
24		人権に関わる課題を知識として学ぶだけでなく、日常生活において態度や行動に現れるような人権感覚の育成に努める。	3.0	2.9	◇小さなことでも見逃さない態度を生徒達にも見せる。	
25		教育活動全般を通じて、情報の活用に伴う情報モラルの育成に努める。	3.5	3.2	◇この分野に関して様々な活動をしているので、生徒一人一人がもっと意識し、校外にも発信していく。	
26		キャンパスカウンセラーと連携を密に取るなど、特別な支援を要する生徒や悩みを抱える生徒の支援体制を作る。	3.2	2.9	◇今後も更に教育相談を利用して、生徒が安心して通学できる環境作りを行う。	
27		ホームルーム活動等を通じて、いじめ未然防止に向けた取組を行っている。	3.2		○いじめに関するアンケートも利用しつつ、小さな出来事などにもすぐ対処するように心がけている。	
28	自然や人と関わる体験活動、食育等を通じて、心身ともに健康で命を大切にする生徒の育成に努めている。	3.3		○1年生の総合的な学習の時間において、食育の推進を図ることができた。		